

センター長ご挨拶



久留米大学地域連携センター長

伊 佐 淳

経済学部文化経済学科教授

2014年7月に設立された地域連携センターは、「久留米大学における教育・研究と地域社会をつなぎ、地域のシンクタンクの拠点として、地域社会との連携、生涯学習機能等、久留米大学の地域貢献活動を総合的かつ組織的に遂行すること」を活動目的としています。これまでの具体的な活動としては、行政機関8件・企業等9件・教育研究機関等4件、計21件（2021年3月時点）の協定先と連携して地域活動を展開しております。また、教育研究の成果を広く社会に還元することを目的として、センター設立以前の1986年より公開講座を開講してきました。

今後到来する予測困難な未来に向けて、当センターは、6学部13学科4大学院研究科を持つ総合大学である本学と地域社会・行政機関・企業・他大学・教育機関・在学生・卒業生・地域住民を「つなぐ」役割を果たし、地域におけるプラットフォームの形成を目指します。それは、地域の課題を認識し、解決したいと考え、話し合い、実践していく有志の方が集まる「場」のことです。プラットフォームが機能すると、それぞれのメンバー間に協働が進み、重層的な協力関係ができてきます。それが地域経済社会全体の活性化につながり、その先には、地域にイノベーションが起きる可能性も見えてくるのだと思います。

こうしたビジョンの下に、当センターでは久留米大学が90年以上にわたり蓄積・提供してきた医療・教育・研究をもって、すべての関係先に貢献し続けていくことを目指します。今後とも、みなさまのお力添えをお願いいたします。

久留米大学 地域連携センター

Kurume University ●●●
Regional Collaboration Center





久留米大学地域連携センターは、本学における教育・研究と地域社会をつなぎ、地域のシンクタンクの拠点として、地域社会との連携、生涯学習機能等、本学の地域貢献活動を総合的かつ組織的に遂行することを目的として活動しています。本冊子では、これまでの活動実績をご紹介します。

連携協定先との活動実績

行政機関

提携年月日	提携先	具体的な活動
2003.10.23	久留米市	<ul style="list-style-type: none"> ●地域連携センター主催の教育プログラム「地域防災を担う人材の育成」に久留米市河川課と防災対策課の担当職員が登壇('20) ●久留米市産米推進協議会より贈呈された久留米市産米204kgを「100円夕食弁当」として学生に提供('20) ●ふるさと納税返礼品として久留米大学グッズの「久留米大学酒」「久留米餅がま口コスメポーチ」「久留米大学オリジナル紺セット(ランチョンマット、コースター)」を登録('19)
2015.11.26	筑後市	<ul style="list-style-type: none"> ●市内の8小学校に学生サポーターとして延べ約700名を派遣('15~'19) ●ちご祭企画委員・実行委員として学生を派遣('16...6名、'17...9名、'18...4名) ●恋のくに観光実行企画委員として学生を派遣('17...4名、'18...5名、'19...5名、'20...16名) ●筑後で幸せ100年ワークショップに学生3名を派遣('18) ●筑後市地方創生推進委員会の委員として学生1名を派遣('19~'21) ●「ジュニア・スポーツ・チャレンジ」の企画運営に人間健康学部スポーツ医科学科の教員・学生49名が参画('18...教員1名、学生25名、'19...教員1名、学生22名) ●筑後市の担当者と本学学生3名が筑後染織協同組合主催の「久留米編織復活プロジェクト」にプロジェクトメンバーとして参画('20~)
2016.8.1	広川町	<ul style="list-style-type: none"> ●広川まつり企画委員として学生3名を派遣('17) ●小中学校学習ボランティアとして学生を派遣('17...16名、'18...8名) ●経済学部の富吉ゼミと八女郡広川町の地域おこし協力隊、広川町のゆげ製茶により「久留米大学茶」を開発。ふるさと納税の返礼品に選定 ●農産物等のブランド化を進める『ひろかわ』ブランド推進協議会に経済学部の富吉ゼミが参加('20~)
2017.2.28	うきは市	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの健康・生活実態調査の実施 ●うきは市ルネッサンス戦略推進協議会への参画 ●うきは市テロワール歴史協議会への参画 ●ワークショップ「まちづくりカフェ」に学生1名を派遣('19) ●公開講座「うきは学」を開講 ●官学連携市内事業者紹介事業(筑後信用金庫に委託) ...本学学生がうきは市内業者を取材、広報誌の原稿を執筆('18~) ●キャリア教育科目「仕事とキャリア」の講師として市職員を派遣('18~) ●うきは市市民大学子ども未来学部「うきは市寺子屋」において本学学生が子どもたちの学習を支援('17...14名、'18...17名、'19...26名) ●壱岐市との交流事業「壱岐市青少年交流体験事業」に学生ボランティアを派遣

行政機関

提携年月日	提携先	具体的な活動
2017.11.27	大川市	<ul style="list-style-type: none"> ●大川木の香マラソン大会3km/5km/10kmの先導車として本学自転車愛好会の学生を毎年度3名派遣('18~'20) ●公開講座「大川学」を開講(大川市の歴史と文化を考察し、有明海と筑後川の民話と民謡に親しむ) ●中学生を対象とした学習支援(おおかわ寺子屋)に本学学生が学習支援サポーターとして参加('20~...1名)
2019.11.12	基山町	<ul style="list-style-type: none"> ●基山町民の健康意識への啓蒙活動や健診受診率の向上 ●小学生や中学生を対象とした健康教育活動などの支援 ●「基山町ふれあいフェスタ」に久留米大学ブースを開設、健康チェック、専門医師による健康相談 ●経済学部の伊佐ゼミによるフィールドワーク ●基山町と本学を含む6団体で「健康増進」に向けた協議会を発足('20~) ●基山町「街の健康手帳」体験会を実施('21)
2019.11.26	大牟田市	<ul style="list-style-type: none"> ●大牟田市観光基本計画策定委員会に本学教員を委員として派遣('21~) ●大牟田市観光基本計画策定におけるワークショップに学生8名を派遣('21~)
2020.7.20	小郡市	<ul style="list-style-type: none"> ●小郡市の歴史と文化について考察する市民公開講座「小郡学」を開講 ●総合振興計画策定審議会に本学教員を委員として派遣('20~)

企業等

提携年月日	提携先	具体的な活動
2016.3.24	筑邦銀行	<ul style="list-style-type: none"> ●「グローバル・キャリア(筑邦銀行・三井住友銀行連携講座)」を開講('16~'20)
2016.3.24	三井住友銀行	<ul style="list-style-type: none"> ●「グローバル・キャリア(筑邦銀行・三井住友銀行連携講座)」を開講('16~'20) ●近隣自治体を対象とした地方自治体の取組に関する勉強会「地方創生部会」への参画('16~'20) ●就職支援行事「業界研究セミナー」に講師として登壇('20)
2016.3.28	株式会社ジョイフル	<ul style="list-style-type: none"> ●連携講座「商学特講Ⅰ(実践フードビジネス戦略)」を開講('16~'18)
2016.8.2	久留米商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> ●中心市街地全域の「くるめ楽衆国まつり」、地域づくりイベント「筑後川ブランド大会」において経済学部の藤谷ゼミと協力 ●久留米ほとめき通り商店街「土曜夜市」、久留米たまがる大道芸でのチャリティバザー、二番街商店街NGOオックスファームショップ(フェアトレード)の運営等を法学部の松田ゼミがサポート ●フィールドワークを含む講義「久留米・筑後体験演習」にて地域振興とマーケティングをテーマに前期・後期の年2回、体験演習先として学生を受け入れ ●久留米市内単位互換協定校における共同講義にて「中心市街地活性化と久留米の宝を磨く」「人口減少社会における地域振興とマーケティング」をテーマに登壇 ●久留米創生プロジェクト「健康見守りマーケット創出プロジェクト」に人間健康学部スポーツ医科学科の満園教授、「健康×ものづくり」プロジェクトに満園教授と医療センターの井野講師が協力
2016.8.10	石橋工業株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ●「地域学演習」で大麦を使用したシフォンケーキを開発 ●コンソーシアム久留米主催「理工系女子の仕事図鑑」('17) ●「5大学連携オープンキャンパス」シフォンケーキの科学('19)

連携協定先との活動実績

企業等

提携年月日	提携先	具体的な活動
2017.12.8	筑後信用金庫	<ul style="list-style-type: none"> ●筑後信用金庫等九州北部の13信用金庫が主催する「しんきん合同商談会」において地元中小企業インタビューを実施し、その発表会を開催('17) ●本学学生が表紙をデザイン、企業インタビューや掲載記事を企画した地域経済情報誌「ここんにき」発刊('18~) ●筑後信用金庫の協力のもと、うきは市内の企業を本学学生が取材し、「広報うきは」に掲載('18~) ●本学学生が筑後信用金庫のディスクロージャー誌の表紙をデザイン('17,'19) ●経済学部「文化経済特講」において、本学学生が筑後信用金庫の推薦する地元企業の会社案内を作成・発表('19)
2018.8.8	西日本新聞社	<ul style="list-style-type: none"> ●気になる新聞記事を切り抜いて壁新聞を作るワークショップ「まわしよみ新聞」を実施('18~) ●本学教員がマネー情報紙「オーエン」のコラムニストとしてコラムへの寄稿や講演を担当('18~) ●寄附講座「現代メディア学」を設置し、「ジャーナリズム論(ニュースを読む)」「活字メディア実習演習」を開講('19~)
2019.11.24	Nanairo lab	<ul style="list-style-type: none"> ●医学部や人間健康学部を始めとする学生たちのラグビーを通じた交流や人材育成 ●子ども向けにタグラグビーを通じたスポーツ交流などを実施
2019.12.16	RKB 毎日放送	<ul style="list-style-type: none"> ●RKB ラジオ祭りにブース出展 ●RKB ディレクターが講師として「放送制作実習・演習」担当 ●RKB ラジオの番組を御井キャンパスから生放送 ●テレビ番組「発掘ゼミ」で、本学の取組を紹介(救急サークル、餅フェスタ)

教育研究機関等

提携年月日	提携先	具体的な活動
2016.3.28	青森中央学院大学	<ul style="list-style-type: none"> ●単位互換科目「地域連携特講」「地域探究アクトⅡ」開講('16~'19) ●共同研究「地域の特色を活かした産業創成～東北地方と九州地方の比較～」('17)
2017.11.24	久留米工業大学	<ul style="list-style-type: none"> ●リハビリシューズ、入院患者の床ずれ防止用センサー、転倒防止用の離床センサー等の共同開発 ●久留米工業大学の学園祭「愁華祭」にて、両大学合同のチームを結成して久留米餅ファッションショーを実施('19)
2017.12.15	国立水俣病総合研究センター	<ul style="list-style-type: none"> ●本学院生が国保水俣市立総合医療センター内メグセンターにて研究活動を実施。本学院生の指導教官と定期的に共同研究の進捗状況の確認や成果評価を実施している。('17~'19)
2019.8.1	久留米工業高等専門学校	<ul style="list-style-type: none"> ●久留米大学医学部と久留米工業高等専門学校の電気電子工学科、材料システム工学科、制御情報工学科、生物応用化学科がそれぞれ共同研究を実施('20年度4件) ●単位互換事業 ●久留米大学から久留米高専に学校医等を派遣 ●久留米大学から久留米高専に科研費講習会講師を派遣

主な活動実績

久留米市との連携による教育プログラム「地域防災を担う人材の育成」を開催

2020年の10月と11月の2日間に渡り、教育プログラム「地域防災を担う人材の育成」を開催しました。

このプログラムは、「これまでの災害支援活動の実際と課題」として「地域防災のために、これから私たちに何ができるのか」を地域のみならず各団体の防災担当者とともに考えることを目的に当センターが企画したものです。

久留米市都市建設部河川課の高田哲治氏に「久留米市の豪雨災害と浸水対策について」、久留米市総務部防災対策課の花田克善氏に「災害に備えて」をテーマに報告していただき、本学法学部の松田光司教授も地域防災を担う人材育成に関連した本学のこれまでの取り組みと今後の取り組みについて説明しました。

現地とオンラインによる同時開催としたことで地域にお住まいの方をはじめ多くの参加者が久留米市の防災に向けた取り組みを知り、一人ひとりが防災意識を高めていくためのプログラムとなりました。



高田哲治氏

花田克善氏



プログラム当日の様子

筑後市「恋のくに観光実行企画委員会」に学生が参画

筑後市と本学は2015年に包括連携協定を締結しさまざまな連携活動を展開していますが、第2次筑後市観光推進実施プランに基づき開催されている「恋のくに観光実行企画委員会」には2017年度から毎年、学生が参画しています。

2019年度は、「恋のくにかるた大会の実施」や「恋のくにをPRするラッピングトラックのデザインの検討」等、筑後市の観光振興を目的として活動しました。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により例年と比べると開始時期が遅くなりましたが、多くの学生が委員会に参画し、筑後市内の各団体の代表者の方や市民の方々と共に魅力溢れる観光パンフレットの作成に向けて活動しています。

オンライン開催やコロナウイルス感染対策などの筑後市商工観光課による多くの配慮によって、これまで続けてきた連携活動を止めることなく、状況に応じた活動を展開することで、より連携を緊密にして取り組んでいます。



恋のくにかるた大会

ちっこ祭



ラッピングトラック

基山町と本学を含む6団体で「健康増進」に向けた協議会を発足

これまで基山町の健康増進計画に基づき特定健診データの「糖尿病」「腎疾患」「認知症」の分野での解析・研究や健康相談などを行ってきましたが、町民の更なる健康増進・地域活性を目的として2020年12月に株式会社NTTデータ九州が提唱する「ファストケア構想」を採用し、地域住民の健康に関する気付きや取り組みの促進、企業と連携した地域活性化施策の検討などに着手することとなりました。「ファストケア構想」は“健康”だけではなく、“生きがい”や“自立”を含めたQOL向上を目標とした地域密着型のヘルスケアエコシステム構想です。

この事業の円滑な推進のため、医療現場との連携を支援する一般社団法人鳥栖三養基医師会、健康に関するデータを取り扱うブロックチェーン型流通基盤やAI分析を手掛ける株式会社OKEIOS、治験ノウハウによるデータマネージメントを行う株式会社アイロムCSを加えた6団体での協議会が発足しました。



筑後信用金庫の協力により学生の作成記事を「広報うきは」に掲載

筑後信用金庫・うきは市・久留米大学による官学金連携事業として、うきは市内事業者の紹介記事作成に2018年度から学生が携わっています。

本事業は、うきは市の広報誌「広報うきは」の中で市内の企業を紹介する記事を掲載することでうきは市民に対して市内の企業への関心と認知度を高めることを目的とするもので、取材先の選定から当日の立ち会い、記事の作成まで筑後信用金庫に全面的にご協力いただいております。

学生は取材をとおして地域企業を知り、経営者や従業員に直接お話を伺うことで仕事に取り組む姿勢や考え方に触れる貴重な機会を得ています。

筑後信用金庫とは2017年度の協定締結以降、地域経済情報誌「ここんにき」の発刊等さまざまな取り組みをとおして連携していますが、これからも地域と地域産業の活性化への寄与を目指し協力していきます。



広報うきは



ここんにき

広川町と「久留米大学茶」を共同開発

2018年、広川町の八女茶生産農家、広川町の地域おこし協力隊、経済学部富吉ゼミの3者が減農薬の八女茶を100%使用した「久留米大学茶」を共同開発し、販売を開始しました。

創立90周年を迎えた久留米大学のブランドイメージ向上と広川町の地域創生プロジェクト「ひろかわ新編集」の推進を目的にした共同開発の中でゼミ生は、実際に茶畑に足を運び試飲を繰り返し、より良い商品づくりを目指しました。

ペットボトルの手書き風ラベルもデザイン担当者と相談しながら完成したもので、黒板をイメージしたスクールカラーのダークグリーンを基調に、地元の耳納連山や筑後川、茶畑などが描かれています。

「久留米大学茶」はふるさと納税の返礼品にも選定され、八女茶の魅力の全国発信および広川町の地方創生に寄与することが期待されます。2016年に協定締結した広川町とはさまざまなイベント等で協力してきましたが、今後も新たな取り組みを展開していけるよう連携を深めていきます。



久留米大学茶 (500ml)



完成記者発表の様子

西日本新聞社による寄附講座「現代メディア学」を設置

産学連携による寄附講座「現代メディア学」は、学生が社会的事象を読み解き自らの意見としてまとめ文章化する能力の習得を目的として、2019年に西日本新聞社により学内に設置されました。講座には同社編集委員の藤田中氏が教授として着任し、担当する「ジャーナリズム論(ニュースを読む)」や「活字メディア実習演習」といった講義の中で35年の新聞記者としての経験と専門知識に基づいた教育が展開され、就職活動中や社会人になった後にも役立つ情報の加工、分析、発信等の能力を醸成する機会が提供されています。

また、商学部の塚崎教授は同社が発行するマネー情報紙「オーエン」のコラムニストとしてこれまで数多の講演やコラムへの寄稿を行っています。

2018年の協定締結以降、多くの教育研究活動が西日本新聞の紙面に取り上げられ、本学が目指す地域社会への貢献に向けて協力を得ています。



藤田中教授



調印式の様子